

# つむぐ

- ◆ いじめ解決支援チーム通信 第2号
- ◆ 令和2年 5月25日
- ◆ 最上教育事務所指導課

「国立教育政策研究所」作成

## 「生徒指導リーフ」を紐解く

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターが、平成24年度より発行している「生徒指導リーフ」シリーズについて、今年度は「いじめ」に焦点を当ててそのポイントを解説していきます。第1回目は「Leaf. 4 いじめアンケート」についてです。



### 被害者や加害者の発見が目的ではない

#### Q1. いじめアンケートの目的は？

A1. いじめがどの程度起きているのかを定期的に把握し、いじめが起きにくくなるような取組を意図的・計画的に行って、その取組の成果を評価し改善するために行う。

#### Q2. なぜ、無記名式アンケートを実施するのか？

A2. 早期発見に役立てようと「記名式アンケート」を実施しても、多くは「手遅れ」の事例になる。また、現在進行中で、深刻な事例ほど、「記名式アンケート」に回答しづらい。過去の経験率を知ること、そして今後どの程度起こりそうかを知るためには、より正確な回答が得られやすい「無記名式アンケート」を用いることが望ましい。



### 【いじめ未然防止のためのPDCAを回すこと】

- |                                    |                         |
|------------------------------------|-------------------------|
| <b>P</b> いじめが起きにくくなるような取組を考える。     | <b>D</b> 意図的・計画的に実施する。  |
| <b>C</b> いじめがどの程度起きているのかを定期的に把握する。 | <b>A</b> 取組の成果を評価・改善する。 |

### どの児童生徒もいじめの被害者にも加害者にもなりうる



国立教育政策研究所の追跡調査の結果からは、3年間6回（小4から小6、中1から中3）の間に7～8割の児童生徒が被害や加害の経験を持つことが分かっている。教師が気付いた児童生徒以外にも、被害はもちろん、加害にも加わっている児童生徒が常に存在する

### 全ての児童生徒を対象に、「予断を持たない」で観察したり、対策を講じたりすること

数字を真摯に受け止め、対策（例：児童生徒全員と教育相談を実施する、いじめが起きにくい学校・学年・学級の雰囲気をつくる方策を検討する等）を講じていく！

### アンケート実施時のポイント

アンケートの内容以上に注意したいのは、実施時の雰囲気である。

- 簡単なアンケートではあっても、**ふざけず正直に答えてほしい**ことを伝えること。
- 回収後は児童生徒の目の前で大封筒に入れるなどし、**無記名であっても匿名性を守る姿勢**を見せることが、児童生徒の信頼を得る上で大切である。

